(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人 宝集会
事業所名	グループホーム集い
所在地	愛媛県新居浜市葉東田3丁目乙11番地86
自己評価作成日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 2月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念にも謳われているように、入居者の皆さんが心から喜び、心から嬉しく思っていたけよう、日頃から温かい声かけで接しております。</p> <p>また、ご本人の持つおられる機能を出来るだけ維持向上されるように、ご自分でできることはしていただき、出来ないところの支援をさせてもらっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>これから開発が進む新興住宅地の一角にある開設1年目の事業所である。平屋造りの建物は、広い会議室があり、2ユニット合同の行事や地域から参加の多い運営推進会議を行っている。今回の自己評価に職員全員で取り組んだ結果、職員はサービスを見直す良い機会となり、より質の高いサービス提供に努めている。また、利用者の生活を職員全員で支えようとする意識は高く、サービス向上に取り組んでいる。地域の行事に参加したり事業所便りを地域に配布したりして、周知や理解に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 集いが目指すサービスについて、職員全員で話し合い理念を作る。 理念は、ユニット名にもなっており各職員が理念にそった支援を心掛けている。</p> <p>(外部評価) 「歓心 心からうれしく 心から喜び合える 楽しく和やかな処」という事業所の理念は、管理者の願いや職員の思いが込められている。管理者は、サービスを心から行うこと、心から感じることを大切にし、利用者の豊かな表情が表れるように刺激のある気持ちのこもった支援に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会し地域の行事には、参加するように心掛けている。 また、入居者のお誕生日会等の行事では、ボランティアとして参加していただけるようお願いしている。</p> <p>(外部評価) 総合防災訓練やお祭り、バザーなど地域行事や催し物に、利用者と一緒に参加している。職員は自治会の会議に参加し、地域の一員として活動するように努めている。運営推進会議の参加者から地域のボランティアを紹介してもらい、事業所にマンドリンやフラダンス、日舞などの訪問があり交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地元地域の人達からの支援は受けているが、現在のところ開設もなく、地域の人達に向けての支援について活かされていることは少ない。相談事等があれば積極的に応じ、今後の対応についてアドバイスをしていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、家族、地域の自治会長、公民館館長、民生委員の方等参加していただき、多くの意見や助言をいただいている。	
			(外部評価) 地域から自治会、公民館、地区社協、地域包括支援センター職員、家族、事業所からは理事長、管理者、計画作成担当者が参加して開催している。会議では意見や要望に対する取組みや報告、意見交換をし、会議録を作成している。参加者からの声や提案を反映した事業所作りに努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただいている地域包括支援センターの職員さんや市の事業所指導係の職員さんには、介護保険の更新申請に伺った際や変更届け提出時などに助言等をいただいている。	
			(外部評価) 市担当者からは、介護保険の申請書や変更申請について助言や協力を得ている。運営推進会議には地域包括支援センター職員と市担当者の参加があるなど連携が取れている。4月から市から派遣される介護相談員を受入予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ①切迫性②非代替性③一時的 以上の三つの条件を満たしている場合に限る事をふまえ、スタッフ会等で話しあっている。 正面玄関は、自動式。副玄関については、出入りが職員の把握が出来ないために、家族への説明と承諾を得て、基本的に施錠をしている。	
			(外部評価) 利用者が不安な気持ちの時は、寄り添って一緒に歩いて見守ったり、天気の良い日は外に出て散歩をするなど気分転換したりして、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。正面玄関の自動ドアは、内側から施錠してありリモコンで開けている。	正面玄関は自由に入出入りすることができないため、施錠をせずに見守りで対応するなど、現状と事業所が目指すものについて、職員で話し合いを持つことを望みたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各職員にスタッフ会等で高齢者虐待防止法等については勉強を促しており、理解できている。 また、管理者は事業所内で虐待が起こることがないように注意を払っているが、想定していない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び計画作成担当者は、成年後見制度の研修に参加し理解を深めている。職員についてもより深く理解出来るように研修に参加し、研修内容についてスタッフ会等で発表し、全職員にも理解を深めてもらう。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結の際は、料金やケアについての考え方や、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について、重要事項の説明として実施している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設玄関には意見箱を設置し、意見や要望の把握に努めるとともに、運営推進会議にも参加していただき意見を表せる機会の確保に努めている。 (外部評価) 事業所便りを年4回発行し、ハガキや電話で利用者の日常の様子を伝えている。家族が受診介助や訪問時には職員から声をかけ、利用者の様子を伝えたり要望を聞いたりしている。運営推進会議に家族の参加がある。	「事業所にお任せします」と言われる家族が多く、開設1年を経て築かれた家族との関係を大切にしながら、利用者や家族の率直な意見や要望を引き出すなど運営に反映していく取組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人代表者や管理者は、職員の考えや意見を、自由に発言できる環境作りを常に心掛けている。	
			(外部評価) 月1回のユニット会では、職員との意見交換が行われている。職員は自由に発言することができ、利用者の生活や行事について話し合いをしている。理事長は毎回参加し、要望を伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得や研修参加の希望があれば、出来る限り勤務調整を行い参加してもらっており、各職員が向上心を持って働ける環境整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修スケジュールが組めておらず、各職員の自主的な研修参加のみで、事業所として職員のレベルに合った研修の機会の確保が十分行えなかった。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 事業所として研修の機会の確保が不十分であり、同業者との交流、ネットワーク作り等行うことが出来なかった。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 急な入居希望が多く、事前の関係作りは不十分である場合が多いが、入居時初期には、声かけ等を多くし、本人の不安を少しでも取り除けるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等との相談時間は十分確保し、不安なことや要望等の把握及び関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期対応時は、家族等の介護疲れも見極めた上で、出来れば在宅での生活の継続を第一に考えた助言及び支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は常に提供する立場にならないよう、食事の調理法や風習等、入居者の方に教えていただく機会を確保するようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族面会時には自室にて一緒に過ごしていただき、本人の変化等職員が気付かないことなどアドバイスいただくなど、共に支えていく関係を築けるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 散髪や買い物に関しても、本人の馴染みの店があれば出来る限りお連れするようにしている。また、入居者より「○○さんどうしよるかな」等の話があれば、電話し面会に来ていただくようお願いしている。 (外部評価) 馴染みの関係はアセスメント時に把握している。その後知ったことはケース記録に記入し、職員で共有している。利用者の誕生月には、「わがままケアプラン」という利用者の思いに沿った計画を実行しており、生まれ育った場所や元の職場の近くに行ったりするなど馴染みの関係の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 作業レク等では、本人のレベルに応じて役割を分担し、入居者同士が関わりあえるよう支援しているが、日常生活では十分な支援が行えているとはいえない。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等により契約が終了しても、その後の受け入れ先など必要に応じて相談や支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人が何を希望し何を求めているのかを知るために入居者さんに寄り添い意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 生活歴や環境などをフェイスシートにまとめている。職員は利用者と目線を合わせた関わりを大事にしており、話を聞き思いや意向を把握している。病院から入居することが多く、表現することが難しい利用者には、生活の中で表情からくみ取ったり、コミュニケーションが取りやすい工夫をするなどして把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に家族や本人から生活歴、環境など詳しく聞くようにしている。職員一人一人がフェイスシートによって個人を把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の一日の過ごし方、心身状態を把握し記録している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画やモニタリングはユニット職員全員の意見やアイデアを反映したものになるようにしている。家族等の意見や要望については、面会時の近況報告の際に把握に努めているが十分とは言えない。	
			(外部評価) 利用者の担当制を取っており、介護計画作成時やモニタリング時は、担当職員が意見を出して話し合うように工夫している。毎月行われるユニット会には職員全員が参加し、利用者の生活や介護計画について話し合い、3か月に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の個別記録を基にカンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族のニーズに対応して通院、薬の依頼、入退院の付き添い、散髪への送迎など職員が支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議を通して地域資源の把握に努め、地域の行事やイベント等への参加により、楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の受診の際は、出来る限り看護師が同行 し、入居者の情報提供や今後の対応について相談を行 うようにしている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を受診している。通院 介助は、家族の協力を得て行っている。受診時は毎日 の健康管理表を持参して診てもらい、受診後は家族か ら内容を聞いて把握している。また、薬の説明書の管 理や協力歯科医の往診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤職員として看護師1名を配置し、介護職員の情報 や気づき、相談にすばやく対応できるようにし、個々 の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、入居者が安心して治療を受けられるよう 「情報提供表」を作成し、情報提供に努めている。ま た、入院後も随時病院等と連絡をとり情報交換を行う ようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に、重度化や終末期の対応について事業所で出 来ること出来ないことを十分に説明している。	
			(外部評価) 重度化した場合は、事業所での対応に限界があること を入居時に利用者や家族に説明し、同意書に署名して もらっている。利用者のかかりつけ医と連携を取り、 緊急時の搬送希望病院を確認するなど迅速に対応でき るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急連絡網の整備している。また、急変時の対応についてはユニット会等でNSより介護職員に伝達している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回日中及び夜間それぞれを想定した消防訓練を実施し、全職員が避難方法について熟知するよう努めている。また、地域の自治会にも災害時の協力を運営推進会議等を通してお願いしている。 (外部評価) 火災、地震、台風に関する防災マニュアルを作成しており、玄関横に置いて誰でも閲覧することができる。消防署の指導のもと、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議では、災害時の対策について話し合いを行い、自治会からの要望でAEDを事務所に設置している。	年2回の避難訓練を行っているが、利用者が実際に避難した訓練は、まだ1回しか実施されていないため、無理のない範囲で利用者に参加してもらい訓練を実施することが望まれる。また、非常口の段差解消など訓練から見えてくる課題を職員で話し合い、対策につなげていく取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し方、対応には入居者の人格やプライバシーに十分配慮するようユニット会時に話し合っている。 (外部評価) 職員は、利用者と視線を合わせてゆっくり会話し、利用者一人ひとりに合った声かけを行うよう努めている。着替えや入浴、排泄時には、利用者のプライバシーを損ねないように気をつけている。管理者は、認知症ケアについて職員に指導し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声掛け、傾聴により本人の思い気持ちを知る機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人のペースに合わせた生活をしていただくように声掛けを頻繁にして気持ちの把握に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髭剃りや整容を本人と共にいたり馴染みの美容院へ行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 意欲のある方は盛り付けや下膳など行ってもらっている。何もしたくないという方には無理強いしていない。	
			(外部評価) 栄養面と衛生面に配慮するためおかずは外部発注し、ご飯と汁物を事業所の台所で作っている。行事時は、利用者の好きなお寿司や丼物、カレーライスなどを作り、手作りのケーキも好評である。昼食は利用者と一緒に会話を楽しみながら同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 外注によるバランスの摂れた食事と水分補給を頻繁にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケア、義歯洗浄を本人の能力に合わせて毎食後行っただくようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) ユニットに3か所トイレがあり、1か所は車いすで利用することができる。チェック表を用いて排泄パターンを把握し、昼夜ともにトイレでの排泄支援をしている。介助時や見守りには利用者の羞恥心に配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品などを提供し歩行可能の方には散歩を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 原則、曜日は決めているが入りたいと申し出があった時には入浴してもらっている。	
			(外部評価) 利用者の状態によりリフトなどの福祉用具を使用して安全に入浴できるように支援をしている。入浴の苦手な利用者には、無理強いせず、声かけを工夫して支援している。心地よく入浴できるようコミュニケーションを図り、脱衣所や浴室を温めるなどの配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせ、自分の部屋で休息をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の確認をしながら、NSが服薬管理をしているが、介護職員も「薬の説明シート」を確認し薬の目的や副作用について理解するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホールの掃除、洗濯物たたみ、塗り絵等各人の力に合わせた役割で、楽しみながら作業をしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出は、現在の利用者では無理があるので家族同伴、また職員対応で外出をお願いしている。	
			(外部評価) 外出やドライブは利用者に好評であり、花見や紅葉狩り、公園などに出かけている。利用者の希望に応じ、生まれ育った場所などに出かけ喜ばれている。日常的に近所を散歩したり、家族と一緒に買い物に出かけたりするなど外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現時点の利用者には、お金の管理については無理があるので、家族の了解でお金を所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者さんの要望があれば手紙や電話等支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間の音や室温等は職員がこまめに調整し、快適に過ごせるよう支援している。季節感の採り入れについては、異食がみられる入居者さんがいるので、花を飾る等については最小限にとどめている。</p> <p>(外部評価) 広い廊下を活かして歩行訓練を行ったり、レクリエーションでポーリングをしたりすることができる。外光の強弱をカーテンで調節したり、換気や空調管理をして心地よく過ごせるよう工夫している。壁面には季節の飾りや行事の写真を飾っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者さん同士の交流に心がけ、職員も交流に心がけている。また、居室での一人の時間も大切にしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の慣れ親しんだ物や家族との写真等を設置して頂き快適に過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) ベッド、たんす、洗面台が備え付けられており、馴染みの物を持ち込むことができる。家族の協力を得て、衣類の入れ替えや歩行の妨げにならないよう整理整頓されており、心地よく過ごすことができる。。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりの配置や施設内バリアフリーなど、安全かつ出来る限り自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人宝集会
事業所名	グループホーム集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11番地86
自己評価作成日	平成 25年 1月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 2月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念にも謳われているように、入居者の皆さんが心から喜び、心から嬉しく思っただけよう、日頃から温かい声掛けでせっております。</p> <p>ご本人の持っておられる機能を出来るだけ維持向上されるように、ご自分で出来ることはしていただき、出来ない所の支援をさせてもらっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>これから開発が進む新興住宅地の一角にある開設1年目の事業所である。平屋造りの建物は、広い会議室があり、2ユニット合同の行事や地域から参加の多い運営推進会議を行っている。今回の自己評価に職員全員で取り組んだ結果、職員はサービスを見直す良い機会となり、より質の高いサービス提供に努めている。また、利用者の生活を職員全員で支えようとする意識は高く、サービス向上に取り組んでいる。地域の行事に参加したり事業所便りを地域に配布したりして、周知や理解に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 集い

(ユニット名) 心

記入者(管理者)
氏名 伊藤 一徳

評価完了日 平成25年1月6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 集いが目指すサービスについて、職員全員で話し合い理念を作る。 理念は、ユニット名にもなっており各職員が理念にそった支援を心掛けている。</p> <p>(外部評価) 「歓心 心からうれしく 心から喜び合える 楽しく和やかな処」という事業所の理念は、管理者の願いや職員の思いが込められている。管理者は、サービスを心から行うこと、心から感じることを大切にし、利用者の豊かな表情が表れるように刺激のある気持ちのこもった支援に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会し地域の行事には、参加するように心掛けている。 また、入居者のお誕生日会等の行事では、ボランティアとして参加していただけるようお願いしている。</p> <p>(外部評価) 総合防災訓練やお祭り、バザーなど地域行事や催し物に、利用者と一緒に参加している。職員は自治会の会議に参加し、地域の一員として活動するように努めている。運営推進会議の参加者から地域のボランティアを紹介してもらい、事業所にマンドリンやフラダンス、日舞などの訪問があり交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地元地域の人達からの支援は受けているが、現在のところ開設もなく、地域の人達に向けての支援について活かされていることは少ない。相談事等があれば積極的に応じ、今後の対応についてアドバイスをしたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、家族、地域の自治会長、公民館館 長、民生委員の方等参加していただき、多くの意見や 助言をいただいている。	
			(外部評価) 地域から自治会、公民館、地区社協、地域包括支援セ ンター職員、家族、事業所からは理事長、管理者、計 画作成担当者が参加して開催している。会議では意見 や要望に対しての取組みや報告、意見交換をし、会議 録を作成している。参加者からの声や提案を反映した 事業所作りに努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただいている地域包括支援 センターの職員さんや市の事業所指導係の職員さんには、 介護保険の更新申請に伺った際や変更届け提出時 などに助言等をいただいている。	
			(外部評価) 市担当者からは、介護保険の申請書や変更申請につい て助言や協力を得ている。運営推進会議には地域包括 支援センター職員と市担当者の参加があるなど連携が 取れている。4月から市から派遣される介護相談員を 受入予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ①切迫性②非代替性③一時的 以上の三つの条件を満 たしている場合に限る事をふまえ、スタッフ会等で話 しあっている。 正面玄関は、自動式。副玄関については、出入りが職 員の把握が出来ないために、家族への説明と承諾を得 て、基本的に施錠をしている。	
			(外部評価) 利用者が不安な気持ちの時は、寄り添って一緒に歩い て見守ったり、天気の良い日は外に出て散歩をするな ど気分転換したりして、身体拘束はしないケアに取り 組んでいる。正面玄関の自動ドアは、内側から施錠し てありリモコンで開けている。	正面玄関は自由に入出入りすることができないため、施 錠をせずに見守りで対応するなど、現状と事業所が目 指すものについて、職員で話し合いを持つことを望み たい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各職員にスタッフ会等で高齢者虐待防止法等については勉強を促しており、理解できている。 また、管理者は事業所内で虐待が起こることがないように注意を払っているが、想定していない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び計画作成担当者は、成年後見制度の研修に参加し理解を深めている。職員についてもより深く理解出来るように研修に参加し、研修内容についてスタッフ会等で発表し、全職員にも理解を深めてもらう。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結の際は、料金やケアについての考え方や、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について、重要事項の説明として実施している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設玄関には意見箱を設置し、意見や要望の把握に努めるとともに、運営推進会議にも参加していただき意見を表せる機会の確保に努めている。 (外部評価) 事業所便りを年4回発行し、ハガキや電話で利用者の日常の様子を伝えている。家族が受診介助や訪問時には職員から声をかけ、利用者の様子を伝えたり要望を聞いたりしている。運営推進会議に家族の参加がある。	「事業所にお任せします」と言われる家族が多く、開設1年を経て築かれた家族との関係を大切にしながら、利用者や家族の率直な意見や要望を引き出すなど運営に反映していく取組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人代表者や管理者は、職員の考えや意見を、自由に発言できる環境作りを常に心掛けている。	
			(外部評価) 月1回のユニット会では、職員との意見交換が行われている。職員は自由に発言することができ、利用者の生活や行事について話し合いをしている。理事長は毎回参加し、要望を伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得や研修参加の希望があれば、出来る限り勤務調整を行い参加してもらっており、各職員が向上心を持って働ける環境整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修スケジュールが組めておらず、各職員の自主的な研修参加のみで、事業所として職員のレベルに合った研修の機会の確保が十分行えなかった。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今後、グループホーム主催の相互評価にも参加し、他施設の良い点を発見したり、指摘をいただいたり、サービスの向上をめざして学んで行きたい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に見学をしてもらい会話の機会を設け、施設内の雰囲気を感じていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族構成や、入居以前の様子などの情報をアセスメントシートに記入していただき、本人と同様に見学時や面談時に、多種多様な話を聞く機会を設けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当事業所の利用だけにこだわらず、本人のためにより良い支援が出来るよう、ご家族とも相談しながら提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、それぞれの役割を持って日常生活が送れるように支援している。 日常生活のなかでコミュニケーション図り、支え合い感謝する事を忘れない様にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの話しには、職員一同に誠意をもって考えながら対応している。本人からの希望があれば、ご家族に取り次ぐ等、双方の関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまでの生活の中で、入居者一人ひとり思い出のある人、思い出の場所を把握し、話題に出している。 その様な方の面会があると、更に話し話を伺いながら事あるごとに、話題に出す様に努めている。 (外部評価) 馴染みの関係はアセスメント時に把握している。その後知ったことはケース記録に記入し、職員で共有している。利用者の誕生月には、「わがままケアプラン」という利用者の思いに沿った計画を実行しており、生まれ育った場所や元の職場の近くに行ったりするなど馴染みの関係の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い入居者同士をを同じテーブルに位置し、職員が間に入って会話を引き出すように留意し、入居者同士が交流し対話を持てるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族からの要望があった場合には、対応や相談を受け入れ、それに対する支援を行うようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを図りながら、本人の訴えを傾聴しみんなで話し合い、出来ることから始めるように努めている。 また、家族の方にもいろいろと相談をさせていただいている。 (外部評価) 生活歴や環境などをフェイスシートにまとめている。職員は利用者と目線を合わせた関わりを大事にしており、話を聞き思いや意向を把握している。病院から入居することが多く、表現することが難しい利用者には、生活の中で表情からくみ取ったり、コミュニケーションが取りやすい工夫をするなどして把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅に訪問し、本人や家族より情報収集を行っているが、不十分な点もある為、入居後も家族や知人の面会時などに、継続した情報収集を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムや身体状況については、事前に把握するように努めている。 昼夜逆転する入居者もおられるが、一日を通して安心した生活をしていただけるように心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 昔の話などでコミュニケーションを図りながら話し合い、家族の意見も聞きながら作成している。 (本人や家族の要望は、日頃から把握に努めている。)	
			(外部評価) 利用者の担当制を取っており、介護計画作成時やモニタリング時は、担当職員が意見を出して話し合うように工夫している。毎月行われるユニット会には職員全員が参加し、利用者の生活や介護計画について話し合い、3か月に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の様子を記録し、毎朝夕に申し送りを行っており、情報の確実な伝達をしている。 連絡帳も用意し、共有化も図っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の状況に応じ外出や通院介助支援の実施。 看護職員を中心とした、スタッフ全員の健康管理。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域でのイベントに積極的に出向き、人々との触れ合いを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族の望む掛かり付けの病院の他、歯科・内科 等の往診が受けれるようにしている。 掛かり付けの定期受診は、家族に出来るだけ協力を お願いしているが、事情がある場合には、看護師が 受診に付き添い医師との連携を図っている。</p> <p>(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を受診している。通院 介助は、家族の協力を得て行っている。受診時は毎日 の健康管理表を持参して診てもらい、受診後は家族か ら内容を聞いて把握している。また、薬の説明書の管 理や協力歯科医の往診を支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 少しの変化も毎日の申し送りや連絡ノート等で報告 し、看護師または職員が家族や医師に伝達出来るよ うにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 定期的に病院に赴き、情報交換しながら一日でも早い 退院が出来るような環境作りに努める。また、帰宅後 の生活リハビリが出来るような相談をしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合の対応については、家族に対して契約 締結の際に十分に説明している。 (当施設において出来ない内容について特に説明をさ せてもらっている。)</p> <p>(外部評価) 重度化した場合は、事業所での対応に限界があること を入居時に利用者や家族に説明し、同意書に署名して もらっている。利用者のかかりつけ医と連携を取り、 緊急時の搬送希望病院を確認するなど迅速に対応で きるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDの講習を受講したり、勉強会等で応急手当の仕方を看護師から学ぶようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は、定期的実施している。また、地震や台風等のマニュアルを作成しており、対応できるようにしている。 (外部評価) 火災、地震、台風に関する防災マニュアルを作成しており、玄関横に置いて誰でも閲覧することができる。消防署の指導のもと、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議では、災害時の対策について話し合いを行い、自治会からの要望でAEDを事務所に設置している。	年2回の避難訓練を行っているが、利用者が実際に避難した訓練は、まだ1回しか実施されていないため、無理のない範囲で利用者に参加してもらい訓練を実施することが望まれる。また、非常口の段差解消など訓練から見えてくる課題を職員で話し合い、対策につなげていく取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活環境や性格等を熟知し、職員間での入居者の情報を共有し、一人ひとりの小さな変化にも早く気づき、その方に合った声掛けや接し方が出来るように心掛けている。また、入居者が穏やかに生活していただけるように配慮し、信頼が築けるように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者と目線を合わせてゆっくり会話し、利用者一人ひとりに合った声かけを行うよう努めている。着替えや入浴、排泄時には、利用者のプライバシーを損ねないように気をつけている。管理者は、認知症ケアについて職員に指導し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活して行く中でその都度声掛けをし、自己表現のし易い環境作りに努め、希望に添えるように配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れの中で一緒に出来る事は、参加してもらっているが、自室に戻りたい時は、自由にさせていただいている。一人で長時間居られる方については、様子を見ながら声掛けを行って皆さんの所まで出て来てもらい、皆で過ごせる時間が多くなるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が気に入った服を着てもらっているが、いつも同様な着こなしであれば、声掛けをしながら、一緒に選んで違った服を着ていただいている。 入居者の中には、行き付けの美容院に定期的に行かれています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の出来る範囲の中で、盛り付けや片付けのお手伝い、台拭き等をしていただいております。おやつに関しては、一緒に作れるものを用意し、皆さんが楽しんでもらえるよう心掛けている。	
			(外部評価) 栄養面と衛生面に配慮するためおかずは外部発注し、ご飯と汁物を事業所の台所で作っている。行事時は、利用者の好きなお寿司や丼物、カレーライスなどを作り、手作りのケーキも好評である。昼食は利用者と一緒に会話を楽しみながら同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に合った食べやすい形状にして提供している。また、その日の体調の変化にも留意しながら、食べやすい物を提供している。 一日の水分摂取量も常に記録に残し、夏場での発汗等も考慮しながら提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後の口腔清拭については、各人に合った仕方で行ってもらい、使用している歯ブラシやコップは、定期的に消毒や熱処理を行う等、衛生面についても配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者の自尊心を傷つけることのない様に、排泄等に関することについても十分に配慮している。 自立での排泄が今後も継続して出来るように、一人ひとりに合った支援を心掛けている。	
			(外部評価) ユニットに3か所トイレがあり、1か所は車いすで利用することができる。チェック表を用いて排泄パターンを把握し、昼夜ともにトイレでの排泄支援をしている。介助時や見守りには利用者の羞恥心に配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 既に医療機関から緩下剤を処方されている入居者には、適切に服用していただけるようにしている。 便秘での身体に及ぼす血圧高値等の弊害についても理解し、日々運動を心掛けたり飲食についても留意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の嫌いな入居者もおられ、言葉掛けを工夫しながら都度対応している。体調不良や行事等で入浴してもらえない場合には、清拭・衣類の交換を行い、翌日に入浴していただいている。	
			(外部評価) 利用者の状態によりリフトなどの福祉用具を使用して安全に入浴できるように支援をしている。入浴の苦手な利用者には、無理強いせず、声かけを工夫して支援している。心地よく入浴できるようコミュニケーションを図り、脱衣所や浴室を温めるなどの配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 帰宅願望での不安や、共同生活のストレスを低減するように関わりを持ち、その為の様子観察声掛けを行っている。安心されるコミュニケーションを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師と共に個々に処方されている薬の目的や副作用を、ケース記録や処方箋を読んで理解するように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの長い人生を歩んで来られた方々の生活歴をお聞きしたり、今後の施設での生活においても、楽しみと希望を持っていただける様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 戸外に出向いたり、ドライブに誘ったりしながら、季節を感じてもらったり、気分転換をしてもらっている。 また、生まれ育った場所等にも訪れ、懐かしんでいただけるように支援している。	
			(外部評価) 外出やドライブは利用者に好評であり、花見や紅葉狩り、公園などに出かけている。利用者の希望に応じ、生まれ育った場所などに出かけ喜ばれるている。日常的に近所を散歩したり、家族と一緒に買い物に出かけたりするなど外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭は、施設が管理しているが、外出の際の買い物や飲食でのメニューの選択は本人の意向を尊重している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者の希望があれば、都度家族への電話の取次をしたり、郵便物の投函を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング内に日が照りつける際のカーテン開閉は、入居者の感覚に合うようにご自分たちで自由に行っている。 リビングやローカには、季節折々の置物や飾り物を入居者と一緒に作成し、飾り付けている。	
			(外部評価) 広い廊下を活かして歩行訓練を行ったり、レクリエーションでボーリングをしたりすることができる。外光の強弱をカーテンで調節したり、換気や空調管理をして心地よく過ごせるよう工夫している。壁面には季節の飾りや行事の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング内では、仲の良い方達を近くに居れる座席の配置にしている。 居室で過ごされている時もあるが、様子を伺い安全を確認しながら自由に過ごしてもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が居心地良く過ごせるように、馴染みの置物や寝具の持込みをしている。また、希望の品があればご家族に連絡し、持参していただき、安心して生活出来るようにしている。	
			(外部評価) ベッド、たんす、洗面台が備え付けられており、馴染みの物を持ち込むことができる。家族の協力を得て、衣類の入れ替えや歩行の妨げにならないよう整理整頓されており、心地よく過ごすことができる。。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 適切な場所にてすりを設置し、立位や移動の際には役立てている。また、小さなモップを用意し、掃除の時に活用していただいている。	